

今回は、「仕事の誤解」という小冊子からです。

× 受身で過ごすのが会社勤務のうまみと思うのは誤解だ！

年齢を問わず、困る社員の筆頭は「指示待ち社員」である。「Aさんは、指示待ち族だね」とやる気のない社員を指す言葉さえある。指示されてから仕事をするのならば、単純作業をする最低時給のアルバイトで十分である。あなたはなぜ、単純作業のアルバイトよりもはるかに給料を払ってもらえているかをよく考えたことがあるだろうか？会社があなたに期待していることは、言われたことを、言われた通りに、黙々と、受身で作業して欲しいわけではないのだ。現在の仕事を通じて、利益を出して欲しいのである。将来より大きな利益に貢献できる社員に育てて欲しいと言うことである。受身の仕事姿勢は、論外なのである。自分が、今やっている仕事がどのように利益を生んでいるのか、あるいは結びついていくのかということ、自分から考えてほしいのだ。

※ 利益に貢献しているか

「今やっている仕事は、何のための仕事なのか？」「指示された仕事は結局、誰のためにどういう価値があるのか？」ということ自分から分かろうとすれば、自分がどうやって利益に貢献できるかを理解することができる。そうすれば、現時点であまり役に立たない仕事に精を出したり、誰にも認められない余計な仕事に手をつけるようなムダはしなくなる。これが、受身ではない、社員に求められている仕事姿勢なのである。

※ すべての仕事の目的を考える

また、デスクワークや会議のような直接利益を生まないように見える仕事をしていても、利益を生むための言動が要求されていることを忘れてはならない。「この書類の目的は何か？」を理解すれば、もっと効率のよい書類の作り方を提案できる。「この会議はどう利益につながるか？」を知れば、的外れな意見で時間をムダにすることもないはずだ。会議で居眠りしているなどは、もったのほかなのである。

1) 年齢を問わず、困る社員の筆頭はどんな社員ですか？

()

2) 会議で何をしているのがもったのほかと言っていますか？

()

3) あなたは、会議やミーティングの意味を考えて参加していますか？○をつけてください

考えて、参加している

考えず、参加している